

秋そば栽培こよみ

令和5年
氷見市農業技術者協議会

月 旬	6月		7月			8月			9月			10月			11月	
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育 ステ ージ																
	緑肥					播種			開花			収穫、乾燥・調整				
	<p>は種から約4週間で開花期、その後約5～6週間で収穫（は種後約70日）</p>															
	<p>出芽（播種後4日） 開花始め 開花期 開花最盛期 黒化始め 黒化率五割 黒化率七割 成熟期</p>															

主な 管理 作業	ほ場の準備	<排水対策>	播種	<播種時期/播種量（条播）>	中耕	開花期前までに除草や排水対策を兼ねて管理機等で行う	収穫・乾燥・調整	主茎頂花房の黒化率が7～8割となった頃を目安とする。（コンバイン収穫）
		・ほ場の選定 ・額縁排水溝の設置（幅30cm、深さ20～30cm）		・8月上旬/ 3～4 kg/10a ・8月中旬/ 4 kg/10a ・8月下旬/ 5 kg/10a				
		<土づくり>	除草剤	・生育期にイネ科雑草が多発した場合、登録薬剤を適正に使用する。	防除	・ハスモンヨトウ等 老齢になると防除効果が劣るので若齢幼虫時に薬剤散布を行う。		
		・堆肥：肥効向上と微量要素補給 ・緑肥：クロタラリア 5月下旬播種、7月すき込み						



栽培 の ポ イ ン ト	1 ほ場準備	<ul style="list-style-type: none"> ・そばは湿害に弱いため、排水の良いほ場を選定する。 ・雑草害や病虫害を避けるため、3年以上の連作は避ける。 ・額縁排水溝の設置等、排水対策を徹底する。 	5 播種	<ul style="list-style-type: none"> ・播種方法 散播：ロータリーで耕起後、動噴等で均一に種子を散布しハローで表面を攪拌し覆土とする。 条播：シーダー等を使用し、播種深度3cm程度、条間30cm程度を目安に播種する。 ・播種量は、散播で6～7kg/10a、条播で3～5kg/10a程度。 ・気象リスクを考慮して播種時期を分散するとよい。 ・苗立ち数は、100～120本/m²を目標とする。 	6 除草剤	<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>適用雑草</th> <th>使用時期 (収穫前日数)</th> <th>使用回数</th> <th>使用量 10a当たり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナブ乳剤</td> <td>1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)</td> <td>雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） (収穫45日前まで)</td> <td>1回</td> <td>150～200ml 希釈水量 100～150L</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名	適用雑草	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用量 10a当たり	ナブ乳剤	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） (収穫45日前まで)	1回	150～200ml 希釈水量 100～150L	
	薬剤名	適用雑草	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用量 10a当たり												
	ナブ乳剤	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期） (収穫45日前まで)	1回	150～200ml 希釈水量 100～150L												
		2 土づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・牛糞堆肥を10a当たり1～2トン施用し、砕土・整地を行う ・緑肥作付け（クロタラリア：マメ科、基肥の代替） 播種：5月下旬頃、播種量5kg/10a程度、7月すき込み ・土壌pHが低い場合は、苦土石灰等でpHを6.0に調整する 		7 殺虫剤	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象 病害虫</th> <th>薬剤名</th> <th>系統名</th> <th>使用時期 (収穫前日数)</th> <th>使用回数</th> <th>希釈倍数 使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハスモンヨトウ</td> <td>ロムダン 粉剤DL ゼンターリ 顆粒水和剤</td> <td>IGR BT</td> <td>21日前まで 発生初期 収穫前日まで</td> <td>2回以内 —</td> <td>4kg/10a 2,000倍 100～300L</td> </tr> </tbody> </table>	対象 病害虫	薬剤名	系統名	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	希釈倍数 使用量	ハスモンヨトウ	ロムダン 粉剤DL ゼンターリ 顆粒水和剤	IGR BT	21日前まで 発生初期 収穫前日まで	2回以内 —
対象 病害虫	薬剤名	系統名	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	希釈倍数 使用量												
ハスモンヨトウ	ロムダン 粉剤DL ゼンターリ 顆粒水和剤	IGR BT	21日前まで 発生初期 収穫前日まで	2回以内 —	4kg/10a 2,000倍 100～300L												
	3 種子の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した、無病の種子を使用する。 ・秋ソバには、短日条件下で成熟する、生育期間の比較的長い品種を用いる。 	8 収穫（コンバイン収穫）	9 乾燥・調整	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫後、速やかに乾燥作業を行う。 ・平型乾燥機で乾燥する場合、送風温度は30℃以下とし、途中で攪拌し乾燥の均一化を図る。 ・仕上げ水分は15～16%とする ・唐箕や石抜き等によって、選別を丁寧に行い、整粒歩合を高め均質なソバに仕上げる。 												
	4 施肥（基肥）	<ul style="list-style-type: none"> ・チッソ：0～2kg/10a（窒素分15%の肥料なら0～13kg程度） ・リン酸：4kg/10a、カリ：5kg/10a程度施肥（追肥） ・基肥無肥料で生育不足になった場合、開花始め頃までに窒素成分で2kg/10a程度追肥する。 															